

おっぱい都市宣言のまち
自然敬愛都市宣言のまち
から

山口県光市

C / O / N / T / E / N / T / S /

おっばい都市宣言	1
心はいつもこのまちへ還っていく…	2
海・山・川からの贈りもの	4
海の章 人々の心をつなぐ海	6
山の章 いにしえのロマンが眠る山	10
川の章 いのちを育む清らかな流れ	14
大好きなこのまちで…	18
誇れるふるさとをいつまでも…	26
自然敬愛都市宣言	28
市章・市民憲章・市の概要・市の木・市の花	

おっばい都市宣言

- 一、私たちは、おっばいをおして、
”母と子と父そして人にやさしいまち光”をつくります
- 二、私たちは、おっばいという胸のぬくもりの中で、
子どもをしっかりと抱き、愛しみ、心豊かで健やかな輝く光つ子を育てます
- 三、私たちは、すべての母親のおっばいが、
より豊かに赤ちゃんに与えられるよう皆で手助けします
- 四、私たちは、おっばいを尊び、偉大なる母を皆で守ります

「おっばい」何と温かく、優しい言葉でしょう。「おっばい」をおした母と子の穏やかなふれあいは、真に生きる力を持つ、心豊かでたくましい若者を育ててくれることでしょう。そしてこの若者たちが、母と子と父そして人にやさしいまち光で子育てを楽しみながら、このまちに住み、まちとともに輝くことを夢みて、この光市を「おっばい都市」とすることを宣言いたします。

心はいつもこのまちへ還っていく…

おっばい都市宣言と自然敬愛都市宣言のまち、光。

このまちで子どもたちは生まれ、

ふるさとの息吹に包まれてすこやかに成長します。

ふるさとで過ごした子どもの頃の体験は、

いつまでも心の中に生き続けます。

うれしかったこと、楽しかったこと、

悲しかったこと、悔しかったこと…

どんな思い出も、誰もが心の中に持っている大切な宝。

それは、日々の暮らしの中で紡がれていく物語です。

毎日を過ごしているこのまちは、

一人ひとりにとって大切なふるさと。

ふるさとの自然や歴史、人々など

さまざまなものとの出会いやふれあいの中で
数えきれない糧を得て人は成長していきます。

親のように、きょうだいのように、友のように

いつもやさしく包み込んでくれるふるさと。

そんな愛しいふるさとを

しっかりと心で抱きしめて大切にしていきたい。

いつも心が還っていくのは

かけがえのないこの場所なのだから…



昔から神山として崇められてきた石城山、
緑豊かな千坊山や大峰山、原生林に近い姿
をとどめる峨嵋山など、光市はたくさんの
山を擁しています。山の緑は安らぎをもた
らし、歴史、自然、文化などを育んでくれます。

山 Mountain



市のほぼ中央を流れて瀬戸内海にそそぐ島田川をは
じめ、ふるさとの川から、光市民は数々の恩恵を受け
ています。生き物を育み、心にも体にも潤いを与えて
くれる川の流れは、かけがえのない命のみなもとです。



川 River

海・山・川からの贈りもの

…それは忘れられない

大切な時間

このまちには、人々の心をやさしく包み込んでくれる海・山・川の自然がいっぱい。昔ながらの海岸線が残る海は一年を通して美しく、川は大地に恵みを与え、山々は悠然とまちを見守っています。海・山・川に抱かれたふるさとで自然とふれあう時間は、忘れることのできない大切な思い出となつて、一人ひとりの心を温かい気持ちで満たし、ふるさとへの限りない愛情を育んでくれます。

瀬戸内海国立公園の一部を形成する室積・虹ヶ浜の両海岸は、西日本屈指の美しさを誇る光市民の宝です。この美しい白砂青松の海岸を守るために、市民の心は一つになって数々の活動が展開されています。

海 Sea

人々の心をつなぐ海

白い砂、青い海、深い緑の松林……。こうした昔ながらの海岸線が残る室積・虹ヶ浜の両海岸は、古くから地元の人々の手で大切に守り育てられてきました。瀬戸内海国立公園の一部を形成し、総延長約8キロメートルにおよぶ美しい海岸は、「森林浴の森日本100選」や「日本の白砂青松100選」、「日本の渚・百選」などにも選ばれており、ここで過ごすひときは、市民の心に多くのものを与えてくれます。

美しい海を守るために

白砂青松の風光明媚な海岸は、先人から受け継いだ市民の貴重な財産。包み込むような大らかさで皆を迎えてくれる海には、たくさんの人が集い、海水浴やマリンスポーツ、キャンプ、イベントなど、思いの時間を過ごします。利用者が多くなると増えてくるのが海岸に



市民による海岸の一斉清掃

散乱するごみ。美しい海岸を守り続けるためには、利用する側の心がけはもちろん、多くの人たちの協力が不可欠です。

毎年実施される「クリーン光大作戦」は、美しい自然を市民みんなの手で守ろうと昭和48年に始まりました。子どもからお年寄りまで多くの市民が参加し、室積・虹ヶ浜の両海岸をはじめ、島田川や幹線道路などの市内一斉清掃が行われています。また、台風や大雨で海岸にごみが漂着したときには、地元住民を中心に多くのボランティアが参加して自主的な清掃が行われるなど、市民による環境美化の気運が高まりつつあります。





室積海岸(昭和60年撮影)

一人ひとりの行動から

ふるさとの海を愛し、海岸の美しさを守るために力を尽している人は大勢います。

ボランティアで虹ヶ浜海岸の清掃を始めて24年という杉山八重子^{すぎやまやえこ}さんもその一人です。ご主人との死別や自身の闘病生活などつらい日々を支えてくれた多くの人への恩返しのために自分ができることをやろうと始めたのがこの海岸清掃。ようやく空が明るくなり始める早朝に海岸へ向かい、ほとんど毎日休むことなく1〜2時間かけてごみ拾いをしています。弁当の空き箱や花火の燃え残り、バーベキューの残骸、オムツやタバコの吸い殻など海岸に散らばる多種多様なごみで、用意したごみ袋は1日に30枚ぐらゐがあつという間に一杯に。ごみの内容や状態を見て、海岸を利用す



海岸清掃を始めて24年の杉山八重子さん。長年通い続けることで、杉山さん自身も海に育てられた面が多いそうです。



る人たちのマナーの悪さに愕然とすることも少なくないという杉山さんですが、素晴らしい海を誇りにし心から大切にしていきたいという気持ちから海岸通いを続けています。

杉山さんにとって何よりの財産は人との出逢い。長年の海岸清掃で顔見知りも増え、道ゆく人たちとかわす朝のあいさつが日々の励みになっています。そして、元気に明るく海岸を歩く杉山さんの姿もまた、周りの人たちに元気を与えているのです。「海は出逢いの場所。人と出逢い、多くのことを学び、波のように繰り返し繰り返しさまざまなことを体験することで、得られるものがあるんですよ」。海岸の清掃を通じて長い間ふるさとの海を見守ってきた杉山さんの活動そのものが、波のように倦むことなく繰り返すことの大切さを教えてくれます。

美しい海を みんなの手で いつまでも 守り続けたい

イベントで賑わう海

人と海とのつきあい方は時代とともに変化しています。光市では、自然海岸の魅力を高めるため、これまでとは違った視点から海を舞台にした新しいイベントを試みました。平成16年の夏に初めて虹ヶ浜海岸で開催した「スターライトファンタジーin虹ヶ浜」は、2年目の平成17年にさらにスケールアップ。7月から8月の2か月間にわたる「渚のライトアップ」とともに、水



上から/
どろんこになって砂の造形を楽しむ
(サンドアートinひかり)
砂浜の大スクリーンで映画鑑賞
(室積わいわいフェスタ)
海水浴客を迎えるための海の家の充実

中ライトアップによる日本初の「ナイター海水浴」や、噴水と光と音のショー「ウォーターカーニバル」、花火大会、野外ライブなど多彩な催しを繰り広げ、訪れた多くの人々を魅了しました。

また、人々の夏の思い出づくりに一役買っているイベントが、地元のパラソニア団体によって開催される「サンドアートinひかり」と「室積わいわいフェスタ」です。虹ヶ浜海岸の遠浅を利用した「サンドアートinひかり」では、引き潮とともに現れる干潟で大人も子どもも夢中になって砂の造形に挑戦。創った作品が満ち潮とともに姿を消していく様子は、自然の芸術ならではの感動的な瞬間です。一方、室積海岸の「室積わいわいフェスタ」では、ステージイベントのほか恒例のナイトシアターが行われ、砂浜に設置した大スクリーンで映画を観ながら夏の宵を楽しく過ごします。

松林に託された夢

海岸を縁どる松林は、砂浜や海との絶妙のコントラストで風景を美しく彩ります。こうした松林には古い歴史があり、足利義満の時代の古文書にこの地の青い松と白い



マリンスポーツを楽しむ人にとっても光の海は大切な場所

砂が美しいと記されています。また、松林は風水害から農地や住居を守る防風林として大切にされ、毛利藩の時代には、役人が巡回し藩有林として手厚く保護されていました。当時の資料によると、庄屋たちが松苗を寄付して植栽したと記されており、昔から地元の人たちによって松林が守り育てられてきたことがわかります。

かつては3万本以上ものクロマツが緑陰をなしていましたが、松くい虫の被害やたび重なる台風の襲来によって、その数が大幅に減ってしまいました。

このため、市では、松くい虫防除対策などに加えて「海岸松戸籍簿」を作成しました。これは松の管理台帳をつくるもので、全国的にも画期的な事業です。海岸の松1本



幻想的な光に包まれて日没後の海の魅力が満喫できる日本初の「ナイター海水浴」
(スターライトファンタジーin虹ヶ浜)

右上/
コモ巻きで海岸の松を保護
右中・下/
市民による松苗の植栽
下/
クロマツの並木が続く海岸沿い



1本に小さなプレートをつけ、位置や大きさ、手入れの状況などを台帳に記載して、維持管理に役立っています。

また、市が誇る大切な松林を地域の宝として守り育てていこうと、地元自治会が中心となり、多くの市民ボランティアが参加して市と市民の協働による松苗の植栽が行われています。松の成長には時間がかかりますが、何キロメートルも続く松林がかつての姿を取り戻す

子どもの頃から親しんできたふるさとと海。寄せては返す波がやさしく抱きしめるように心を支え、困難を乗り越える勇気ややすらぎを与えてくれる海。心のふるさとである海がいつまでも輝き続けることを願い、光市民のたゆみない活動は続きます。

日を思い描きながら、市民一丸となった活動が続いています。



いにしえのロマンが 眠る山

光市と田布施町にまたがる標高359・7メートルの石城山は、昔から神山として崇められてきました。のどかな田園風景を静かに見守っているこの山は、自然や史跡の宝庫で、静寂の中に悠久の時の重みを感じさせられます。山中には多くの伝説が残る神秘的な空間が広がり、訪れる人々を謎とロマンに満ちた世界へと誘います。



山を取り巻く 不思議な古代遺跡

石城山最大の謎、それは山の八合目付近を鉢巻き状に取り巻く「石城山神籠石」です。昭和10年に国の史跡に指定されたこの石城山神籠石は、延長約2・6キロメートルにもおよぶ長大な列石の古代遺跡。東西南北には石垣壁が築かれ、それぞれに水門が設けられています。

神籠石と呼ばれる遺跡は、九州北部などに分布していますが、いずれも文献に記録がないため、いつ、誰が、何のためにつくったのか定かではなく、明治時代から「俗世と神域とを分けるためのもの」という神域説と、「大陸からの侵略に



石城山のふもとにはのどかな田園風景が広がる



大きな石が整然と並ぶ石城山神籠石

備えた朝鮮式山城」という山城説で論争されてきました。

昭和30年代の発掘調査の結果、古代の山城遺跡という説が有力になりましたが、最近の新たな研究では、当初は神域を囲む垣として築かれたものが、その後、山城に転用されたとする「時差神域説」が提起されています。こうしたいろいろな説にふれ、古代の石城山の姿を幾通りにも思い描くことができる点も、この山が人々を惹きつけている魅力かもしれません。

伝説に彩られた 神秘の山

多くの謎を秘めた神籠石には、さまざまな伝説が残されています。

「山姥の穴」と呼ばれる北水門には、村人を助けてくれるやさしい山姥が住んでいたそうです。また、「龍石」と「龍尾石」は龍の頭と尾にあたり、間をつなぐ神籠石が体となつて月夜には龍が空を飛ぶように見えたと伝えられています。「夜泣石」と呼ばれる岩は、まちという娘が一目惚れをした相手を慕い夜になるとこの岩のそばで泣いていたそう、娘の名前にちなんで「まち岩」とも呼ばれていました。

伝説に包まれた 不思議な空間

石城山にはこうした神籠石にまつわる伝説以外にも、神話や伝説の世界へと導いてくれる場所がたくさんあります。背後に見え隠れする物語を確かめながら山道を辿ってみると、いろいろな魅力が発見できます。

心のふるさと 石城山を未来へ

石城山の伝説について思いを馳せるとき、忘れてはならない存在が谷千寿子^{ちくすこ}さんです。石城山の九合目に20歳まで暮らした谷さんは、

石城山にまつわる昔話や風習を今に伝える語り部として精力的に活動しています。昔話の編さんをはじめ、大学や市民講座などの講師として自身の体験に基づいた石城山の逸話を発表しています。

子どもの頃から、山にまつわる伝説や昔話を祖父や父親から繰り返し聞きかされ、山の中を遊び場として育った谷さんにとって、石城山はかけがえのないふるさとでありわが家のようなもの。予備知識のない人なら見過ごしてしまいそうな草木や石など、山のすべてのものに、いつもやさしいまなざしを注

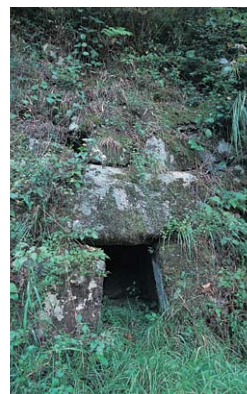
いでいます。

そんな谷さんが語る石城山の話は、人々の心を惹きつける魅力にあふれ、山のことをもっと知りたいという気持ちにさせてくれます。それは、「子どもの頃に神域の中に住んでいたことが、今でも私の誇りであり自慢です」という谷さんの、石城山への限らない愛情が伝わってくるからに他なりません。

何百年も前から語り継がれてきた数々の伝説や昔話は、谷さんの手で新たな命が吹き込まれ、埋もれることなく次の世代に受け渡されているところです。

歴史と伝統が 大切に受け継がれる

石城山には、幕末に「第二奇兵隊」の本陣が置かれました。第二奇兵隊は、長州藩士高杉晋作が外国艦



上右／龍尾石（りゅうびいし）
上左／山姥が住んでいたという伝説が残る北水門
左左／龍石（たつし）
左下／夜泣石（よなきいし）



石城山の伝説と自然に包まれて少女時代を過ごした谷千寿子さん。石城山に寄せる思いはだれよりも深く、史跡の説明の一つ一つに熱がこもります。



伝統芸能として継承されている石城太鼓
般若や鬼に扮した叩き手が、神秘的な山の雰囲気を感じさせる

の砲撃から下関を防御するために組織した「奇兵隊」の軍事行動に呼応して慶応元年（1865年）に結成。四境戦争（1866年）でも大いに活躍しました。今も山中には練兵場跡が残っています。

山頂近くの杉木立の中にひっそりと佇む「石城神社」は、6世紀の鎮座といわれる由緒ある神社です。本殿は文明元年（1469年）に大内政弘によって再建された春日造

の建物で、国の重要文化財に指定されています。神社に向かう参道の入口にある隨身門は、茅葺き屋根の趣のある門です。柱には第二奇兵隊士による刀傷も見られ、幕末の石城山の情景が見え隠れします。平成16年の台風18号で大きな被害を受けましたが、氏子をはじめ市民団体などの支援によって無事修復されました。

石城神社の祭事として始まった

「石城太鼓」は、数百年前に伝わったといわれています。大正時代初期に一度途絶えましたが、昭和51年に復活し、石城太鼓保存会が結成されました。今では、郷土の伝統芸能としてイベントでの披露や子どもたちへの指導が行われ、かつて石城山に鳴り響いていた太鼓の音が、時を超えふるさとを想う人々の心に受け継がれています。

神話や伝説の世界が今もなお息づく石城山の魅力を、より多く



上/石城神社(国指定重要文化財)
下/石城神社隨身門

の人々に知ってもらい、歴史的資源の保存活用と地域の活性化を目指して、今、光市では同じ神籠石を持った自治体と交流する「神籠石サミット」という新しい試みを進めています。

長い年月にわたって地元の人々から畏敬の念をもって見つめられてきた神籠石、そして、石城山の謎とロマンに満ちた魅力は、山から滾々と湧き出る水のように、尽きることのない可能性を秘めており、これからも地域や世代を超えて人々の元に届けられていきます。

いのちを育む 清らかな流れ

岩国市（旧由宇町）に源を発する島田川は、地域のほぼ中央を流れて瀬戸内海にそそぐ光市にとつての母なる川。市民は、この島田川をはじめ市内を流れる川からさまざまな恩恵を受けています。大地を潤し、暮らしや産業を支え、やすらぎと憩いの空間をつくり出してくれる川は、生活と切っても切れない関係にあり、人々にとってかけがえない宝です。



上/夕日の滝
右/島田川の河口には多くの水鳥が集まる



さまざまな命が育まれる場所

島田川は数々の支流と合流しながら周防灘へ注いでいます。豊かな水は瀬や淵、堤、中洲などを形づくりながら絶え間なく流れ、悠久の営みが室積海岸と虹ヶ浜海岸の美しい砂浜を生み出しました。

島田川には、現在確認できる魚が約65種類、流域で観察できる鳥が約150種類生息し、川と海が会おう河口付近は、野鳥をはじめ多くの生き物が集う生命の宝庫。川沿いに設けられた河川公園では、散策を楽しみながら水鳥に親しむことができます。

鳥がさえずり、風にゆれる木々がやさしい影を落とし、四季折々の草花が土手を包み、光を受けてきらめく川の中で小さな生き物たちの命が育まれる。川は人間をはじめ多くの生き物たちの生活の舞台の一つ。ここでは色とりどりの命のハーモニーが奏でられています。

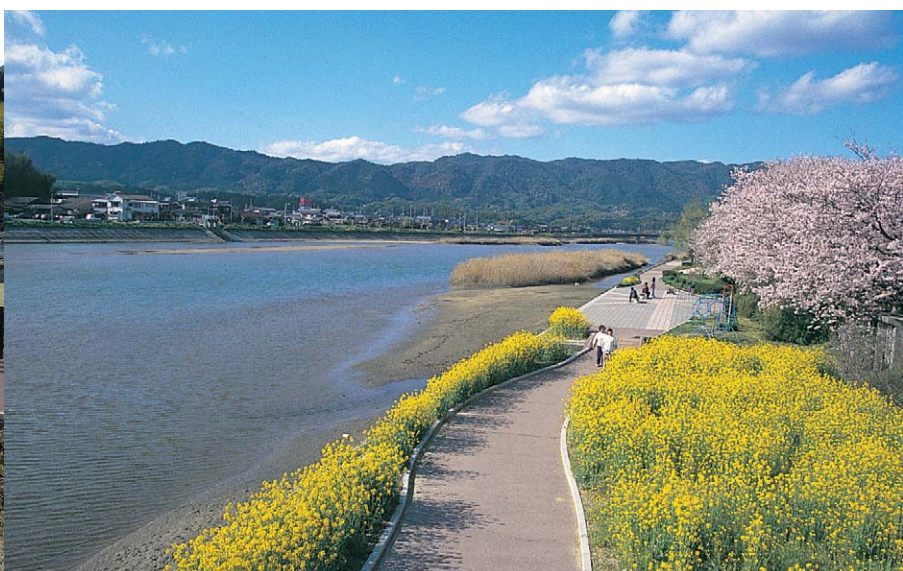
川を舞台に受け継がれる伝統

長い長い川の流れの周辺では、そこで暮らす人々の文化がさまざまな形で育まれ伝統として大切に受け継がれています。

島田川中流の周防地区では、毎夏「周



夏にはホタルが飛び交う東河川公園



遊歩道も整備されている島田川河口付近



夏の島田川をオレンジ色に染める周防柱松

「防柱松」という伝統行事が行われています。江戸時代に疫病退散のために始まったといわれ、一時中断されたこともありましたが、今では子どもから大人まで地域の人たちが一丸となって守り続けています。高さ10〜20メートルの竹の先端をじょうご状にした中に萩の葉や古いお守り、お札などを入れ、火をつけた松明を投げ入れて燃やします。夜空に舞い上がる火の粉が川原を幻想的に彩ります。準備をした地域の人たちにとっても、見物に訪れた人たちにとっても印象的な一夜としていつまでも心に残ります。

歳月が流れ、川原に集う顔ぶれが変わっていても、オレンジ色の光は毎年変わることなく川面を照らし続けます。

大地を潤し いのちを育む 豊かな水の恵み

五感を育み感性を養う 川の恵み

毎年、市が夏の川辺で開いている「水辺の教室」は、子どもたちが川に親しむ大切な機会です。川の中では、思う存分に水しぶきを上げる子どもたちの元気な声があたりに響きます。裸足で川底の感触を楽しんだり、素手で魚を捕まえたりして、水辺の生き物を観察しながら五感を働かせて川とふれあうことで、子どもたちの感性が豊かになっていきます。



水道の水源を守るために開催している「水道まつり」

暮らしを支える水を みんなで守る

澄みきった水とおいしい空気、美しい緑に囲まれた夏のひとときは、大切な記憶の1ページとして子どもたちの心に刻まれます。

市では、生活排水の影響などで汚濁がすすむ川を浄化するため、地域やボランティア団体と協力して竹炭による河川の浄化事業に取り組みました。

木炭に比べると穴が多く、バクテリアがすみ付きやすい竹炭の特性を利用して水の浄化に役立てようという試みです。地元の竹炭研究会のメンバーが繁茂しすぎた竹を伐採してつくった炭を利用しているため、竹林の管理と河川の浄化の双方に役立っています。



島田川に来て、見て、触れて、水の中に入ってみたい、そして川の素晴らしさをいろいろと感じてもらいたいと語る藪博明さん。



この河川浄化事業に参加したボランティア団体の一つが「ひかりエコメイト」。市が開いた平成13年度のエコリーダー養成講座を受講し、エコリーダーとして認定された人たちによって結成されました。現在のメンバーは約20人で、代表の藪博明さんを中心に、自然保護とその啓発活動を行っています。河川浄化活動をはじめ、島田川の生息生物の調査や、貴重なギフチョウ（自主生息域としては光市が南西限）の観察・保護、ギフチョウの生息環境づくりのための山林の間伐、子どもたちとの交流、他の市民団体と共同での河畔への種まきなど活動範囲は多岐にわたっています。

環境を守ることと人間の生活を守ること、時として両立が難しいこの二つの面を調整しながら、一つの課題に取り組む藪さんたちは、



水辺の教室で島田川にすむ生き物の観察をする子どもたち



川はすべてをつなぐ

川を介した地域の人たちとのふれあいや他のまちとの交流によって着実にネットワークを広げています。藪さんたちの活動はまだ始まったばかりですが、自然と人間の生活が調和した環境づくりを目指して、これからも活動は続きます。

生活様式の変化によって、川をめぐる環境にさまざまな影響が現れています。例えば、川辺に生えるアシはかつては刈り取られ、たきぎなどで利用されていましたが、今ではほとんど使われなくなりました。

川原に残されたままの枯れたアシは、大雨が降ると下流に流されて海岸に散乱し、川辺だけでなく海岸にも被害を与えます。

環境破壊は開発によって起きるばかりでなく、人間の生活様式が変化して充分に手を加えられなくなることもよっても起きるものです。川から海へ、一つにつながった長い流れの周辺で暮らす人々は、互いに影響をおよぼし合いながら日々の生活を送っています。流域全体が手を携え心を一つにして、持続的に環境を維持管理することがいかに大切かを、藪さんたちは強く感じています。

おいしい水をいつまでも

光市民の水は、島田川の伏流水を水源としています。川底の砂を通してろ過された伏流水は、ミネラルウォーター並みにおいしいと好評。市水道局では、家庭でおなじみのこの水を平成17年にペットボトルとして製品化し、「ひかりの水」と名付けました。水道まつりなどのイベントや各種会議などで配り、光市の水のおいしさをPRするほか、災害時の備蓄用としても活用しています。

ときにはやさしく、ときには荒々しく、折々に表情を変化させながら川は絶え間なく流れます。山と海をつなぐ生命線でもある川は、命を育み流域の人々のさまざまな思いを運びながら今日も終わりのない旅を続けています。



島田川の伏流水を使用した「ひかりの水」



海・山・川に抱かれたこのまちでは、人々が豊かな自然、古くから培われた歴史や文化、伝統的な祭りや芸能を大切にしながら、いきいきと心ゆたかに暮らしています。繰り返し巡ってゆく季節の中で、子どもからお年寄りまで誰もが日々の営みを丁寧に積み重ね、まちはみんなの笑顔でいつも輝いています。

まちとともに輝く

まちに住み、

大好きな このまちで…



豊かな自然と温かなまなざしに包まれて、子どもたちはすくすくと育っていきます。みんなが手を取り合い、支えあいながら、ゆとりのある毎を送り、心身ともに健やかな暮らしが続きます。

健

すこやかに





9



10



11



16



12



15



13



14

- ① 旬の食材で子どもたちが料理に挑戦
- ② 昼休みはグラウンドで楽しいボール遊び
- ③ 総合学習でグループ研究
- ④ おばいまつりのあかちゃんハイハイ競走
- ⑤ 老いも若きも元気に健康ワーク
- ⑥ パソコンを活用した情報教育
- ⑦ 大和産野菜の日の学校給食
- ⑧ 生きがいデイサービスでゲームを楽しむ
- ⑨ ミニ運動会で親子のふれあい
- ⑩ 血液サラサラ教室で生活習慣病予防
- ⑪ 身だしなみ・メイクアップ講習会
- ⑫ 母と子の良い菌のコンクール
- ⑬ 元気いっぱい保育園児
- ⑭ 図書館で仲良く読書
- ⑮ みんなで七夕の飾り付け
- ⑯ 島田川で水辺の生き物を発見



自然に親しみ自然を愛しむ気持ちから
子どもたちを見守るやさしい心がめばえます。
人とのふれあい、家族とのふれあいを大切にしながら、
ふるさとを抱きしめ
美しい自然や誇りある文化を守り育てています。

愛

いつくしむ





14



13



15

- ① 三世代で仲良く野菜の収穫
- ② 総合学習でホタルの幼虫を放流
- ③ むろづみ緑十字清掃・植樹大作戦
- ④ PTAによる登校時の交通安全指導
- ⑤ 語りの会と一緒に楽しい本の世界へ
- ⑥ 親と子の水辺の教室
- ⑦ さかなまつりで魚にタッチング
- ⑧ 中学生による虹ヶ浜海岸清掃
- ⑨ 環境学習の学校訪問
- ⑩ 総合学習でニジガハマギクについて勉強
- ⑪ クサフグ産卵地の環境美化活動
- ⑫ おっばいまつりで赤ちゃんとのふれあい
- ⑬ 防犯ボランティアによる見守り活動
- ⑭ 冬鳥をたずねる会での野鳥観察
- ⑮ 敬老祝賀会でのお年寄りとのふれあい
- ⑯ ボランティアによる子育て支援活動
- ⑰ 老人会と保育園児のもちつき会



17



16



5

活

いきいきと

海や山や大地で自然とともに働き
四季折々にもたらされる恵みが
まちを豊かに潤し、暮らしに活気を与えます。
たくましく活動する姿といきいきとした笑顔が
まちを輝かせる活力の源です。



1



2



3



7



6



4



8



12



9



13



10



14



11

- ① ハウスでイチゴづくり
- ② 地元の農産物を活用した味噌づくり
- ③ 笑顔の接客で楽しいショッピング
- ④ さかなまつりで模擬セリに参加
- ⑤ 冬の風物詩ツンコ干し
- ⑥ ハクサイの収穫
- ⑦ 自主防災組織の防災訓練
- ⑧ 市民体育大会での綱引き
- ⑨ 市民の命を守る消防隊員の訓練
- ⑩ 自動車部品製造工場で働く若者
- ⑪ ほ場整備された水田で初めての田植え
- ⑫ 市民に人気がある地元農作物の直売
- ⑬ 子どもからお年寄りまでが参加する
藤公の里マラソン大会
- ⑭ 市場で高い評価を受けている
光市のハモ
- ⑮ 山車が威勢よく練り歩く早長八幡宮秋祭り



15



スポーツや文化活動に取り組む市民のパワーが
 燦々ときらめく太陽のように降り注ぎ、
 まちにはいつも賑わいがあふれています。
 生きがいを実感できる環境で、
 みんなが愉快地楽しく充実した人生を送っています。

燦

さんさんと





10



11



12



13



14



8



9

- ① ダンスパフォーマンス大会
- ② 小学校ドッジボールチームの練習
- ③ ビーチサッカー
- ④ 光まつりでのよさこい総おどり
- ⑤ 市民コンサートでの華麗な演奏
- ⑥ 野外ライブでの市民合奏団
- ⑦ ダンススポーツ競技大会
- ⑧ ふれあいコーラス発表会
- ⑨ 光大橋開通記念式典でのアトラクション
- ⑩ フラワーアレンジメント教室
- ⑪ ヤングセミナーで仮想災害を体験
- ⑫ 市民パソコン相談
- ⑬ 大和公民館体育大会で大なわとび
- ⑭ 総合学習を利用した東荷神舞の継承活動
- ⑮ ワークショップで人形づくりに挑戦
- ⑯ 仲間と楽しく陶芸づくり



16



15

誇れるふるさとをいつまでも：

夕日に染まった西の空が次第に暗くなり
まちのにぎやかな一日は幕を閉じます。

やがて、夜明けとともに新しい一日が始まり
とどまることなく時を刻み続けます。

多くの新しいのちが生まれては成長し
日々の営みを続けるうちに、

少しずつ時代は変化してきました。

どんなに時が過ぎていても

決して変わらないもの、それは

まちを包み込んでくれる海、山、川の自然の恵み。

自然は一つにつながって、限りないやさしきで

ふるさとの文化を育み、暮らしをずっと支えています。

自然に抱かれたふるさとはみんなの誇り。

このまちでは

ふるさとを愛しむ心が

世代から世代へと絶えることなく受け継がれていきます。

大いなる自然の恵みに感謝する気持ちがある限り

ふるさとはいきいきと輝き続けます。

いつまでも、いつまでも…



自然敬愛都市宣言

——美しくすばらしい自然を次世代へ——

わたくしたちのまち光市は、白砂青松の室積・虹ヶ浜海岸、市民や水鳥の憩いの場である島田川、また、原生樹林のある峨嵋山や神籠石のある石城山など、古来から先人たちが守り育ててきた水や緑の豊かな自然を有し、今日まで、はかりしれない多くの恵みを受け、健康で文化的な生活を築いてきました。しかし、現代社会がもたらした地球環境の悪化は、わたくしたちにとって、緑や生態系の破壊、異常気象など重大な問題を生じさせています。

わたくしたちは、こうした問題を深刻に受け止め、山や川、海の多様な生物の生態系保全とともに、自然と共生できる社会の実現に努める必要があります。そして、わたくしたち市民一人ひとりが光市の財産であるふるさとの豊かな自然環境を守り育て、次世代へ引き継がなくてはなりません。美しい山・川・海を有するわたくしたち光市民は、その恵みに感謝し、自然を敬愛し、自然の摂理にかなった、快適でうるおいとやすらぎのあるまちづくり、ふるさとづくりを進めることを、ここに宣言します。

一、自然の偉大さ、やさしさ、きびしさを知り、自然に学びふれあい、
豊かな心を育みます

二、美しい緑、清らかな水、さわやかな空気のもと、
ふるさとのかけがえのない自然を創意と工夫をもつて守ります

三、自然を敬愛する心を養い、はかりしれない自然の恵みに感謝します

平成十八年三月二十三日 山口県光市



【市章】

全体の形は光市の「光」です。ブルーは川や海と青空、そして水しぶきを表しています。瀬戸内の自然の恵みと市民(文化)の調和から生まれる、活気にみちた快適で暮らしやすいまち、新「光市」をイメージしています。

【光市民憲章】

わたくしたちのまち光市は
美しい自然と輝かしい歴史をもつ
希望のまちです。
わたくしたち光市民は
その名のごとく
光あふれる理想のまちとするために
この憲章をさだめます。

- 1 ふるさとの自然を愛し
花と緑の豊かな まちをつくりましょう
- 1 こころとからだをきたえ
文化のかおる まちをつくりましょう
- 1 あたたく互いに助け合い
笑顔のあふれる まちをつくりましょう
- 1 たのしく働き ものを大切に
活力のある まちをつくりましょう
- 1 きまりを守り 人をとうとび
しあわせな まちをつくりましょう

【市の概要】

光市は、山口県の東南部、周南工業地帯の東部に位置し、市の東側が田布施町、西側が下松市、北側が周南市に隣接しています。東西方向は約16km、南北方向は約15km、総面積は91.94km²(平成15年全国都道府県市町村別面積)です。地域の北西部には島田川、北東部に田布施川が流れ、両河川を中心にまとまった平地が広がっています。両河川の上流部に良好な田園地域が広がるとともに、島田川下流部のデルタ地帯を中心とした瀬戸内海沿岸やJR岩田駅周辺に市街地を形成しています。また、本市は、瀬戸内式の温暖な気候と豊かな自然環境に恵まれており、白砂青松の室積・虹ヶ浜海岸や象鼻ヶ岬など風光明媚な海岸部は瀬戸内海国立公園に、また、青々とした森の石城山を中心とした山間部は石城山県立自然公園に、それぞれ指定されています。



【市の花】ウメ



【市の木】クロマツ



山口県

光市





2005 光市市勢要覧

発行日/平成18年3月

発行/山口県光市

〒743-8501 山口県光市中央六丁目1番1号

TEL 0833(72)1400

URL <http://www.city.hikari.lg.jp/>

企画/光市政策企画部秘書広報課

制作/大村印刷株式会社